

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀県立武雄青陵中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心の幅を広げ、主体的に学びに向かう力を育成することで基礎学力及び応用力の向上を図るとともに、業務の効率化を推進する必要がある。 ・全教育活動を通じて命の大切さ、異なる考えを持つ他者を理解することの重要性を強調し、道徳教育にも力を入れ、他者を思いやり、向き合う心を醸成する必要がある。 ・教職員の適正な勤務時間管理や業務の効率化・精選を更に進め、働きやすい環境づくりや働き方改革に向けて教職員の意識改革を図ることが必要である。
2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上と進路支援 ○生徒指導の充実 ○中高交流の促進 ○保護者・地域との連携 ○教職員間の組織力の向上、迅速・誠実・的確な問題解決、効果的な働き方の実践及び法令順守意識の徹底

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価				
				達成度 (評価)	実施結果	評価		学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	○「基礎学力」の定着とともに「学び方の基礎基本」を身につけさせる。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるようにする。 ○家庭学習時間の充実と増加	○学校評価アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」と回答した生徒が95%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「授業を受けるのが楽しい」と回答した生徒が90%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「本校では、ICT機器(電子黒板・学習用PC)が有効に活用されている」と回答した生徒が90%以上。	○基礎学力を定着するための効果的な授業研究を行い、授業改善に取り組む。 ○ICT機器の効果的活用で学力向上に役立てる。 ○多様な生徒の能力を引き出すために、少人数授業やTT授業を効果的に行う。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるように、教師は探究的授業を実践する。 ○家庭学習時間の確保、充実を支援する	A	○12月に実施した学校評価アンケートの結果、肯定的に回答した生徒の割合は、「授業がわかりやすい」が97%、「授業を受けるのが楽しい」が95.5%、「本校では、ICT機器(電子黒板・学習用PC)が有効に活用されている」が95.3%といずれも目標の数値を上回ることができた。 ○少人数授業やTT授業を効果的に行い、多様な生徒の対応に努めた。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるよう探究的授業を実践した。 ○家庭での学習時間については、学校評価アンケートの結果、肯定的に回答した保護者は54.6%に対し教師は84.9%と乖離が見られた。	A	○アンケート結果が目標値を上回っており、授業改善やICT活用の成果が着実に表れている。生徒が主体的に学ぶ姿勢の育成につながっている点は高く評価できる。 ○学習時間についての保護者と教師との認識の違いの原因を明確にすべきである。 ○家庭学習時間については「時間」ではなく「家庭学習の目的、および家庭と学校との意識の共有」を図ってほしい。	教務 総務
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力推移調査において、GTZを各教科(国・数・英)をA3以上、国・数・英総合評価で1年生はB1以上、2・3年生はA3以上にしている。	○授業評価アンケートを年2回行い、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○学力推移調査実施後、教科担当者で結果を分析し、全職員での共有し、学習指導の充実と役立てる。 ○サポート学習会、土曜ハイレベル講座等を利用し、個に応じた学習指導を行い学力向上を目指す。	○授業評価アンケートを年2回行い、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ○学力推移調査実施後、教科担当者で結果を分析し、全職員での共有し、学習指導の充実と役立てる。 ○サポート学習会、土曜ハイレベル講座等を利用し、個に応じた学習指導を行い学力向上を目指す。	B	○第3回学力推移調査に向けては、第2回の結果から、それぞれの学年・教科において、現状を把握し、また全職員で共有し、各学年平均GTZ「A3」に向けた具体的な取り組みを行っている。 ○サポート学習会、土曜ハイレベル講座等を利用し、個に応じた学習指導を行い学力向上に役立てている。	B	○アンケートの結果から基礎学力の定着は図れていると感じる。 ○今後は結果分析をより生徒個々の支援に結び付けることで、更なる学力向上を期待する。 ○GTZ達成目標未達について課題は知識技能の未達なのか思考力表現力判断力の不足なのかを検討し、授業改善に生かしてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「道徳の授業を通じて、思いやりや正義感、感動する心を身に付けることができた」と回答した生徒が90%以上。	○「ふれあい道徳」で道徳の授業参観、教育講演会を実施し、生徒・保護者の心構えを高める。 ○生徒の心の成長に応じて、道徳の授業を計画し、内容を工夫する。 ○学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、「取組内容」を達成する。	A	○12月に実施した学校評価アンケートの結果、「道徳の授業を通じて、思いやりや正義感、感動する心を身に付けることができた」と肯定的に回答した生徒は、96.5%と目標の数値を上回ることができた。 ○道徳の授業研究を行い、生徒の心の成長に応じた授業を計画し、内容を工夫することができた。 ○道徳の授業に加え、学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、自他の生命を尊重する心や感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動ができた。	A	○道徳授業や行事を通して、人権意識や他者を思いやる心の育成が図られている。アンケート結果からも、生徒の意識の高まりが伺える。 ○部活や生徒会の活動において、上手い/下手な点や思い通りにいかないことが学校教育・授業の中で前向きに改善されている結果がアンケートに表れている。	総務
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートにおいて、「他者を理解する心」「思いやりや正義感、感動する心」を受けている」と回答した生徒が90%以上。	○学校独自様式による「学校生活アンケート」を年に3回実施するとともに、県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を年に2回実施する。 ○いじめを積極的に認知し、解決にあたっては組織的に速やかに対応する。	B	○県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を年に2回、学校独自様式による「学校生活アンケート」を年に2回実施した。(年度末まであと1回実施) ○いじめに関しては、12月末で22件の認知数で、昨年度(同時期27件)より減少した。学校生活アンケート等により早期発見ができたものと考えられる。 ○いじめ事案に関しては、学年を中心に管理職を交えて積極的に認知し、その解決に努めることができた。	A	○アンケートや組織的な対応により、早期発見・早期対応の体制が整えられている。引き続き、生徒が安心して相談できる環境づくりを期待する。 ○件数の増減より、認知されていること、対応されていることがいじめと向き合っている証左であり評価できると思います。	生徒指導
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎学校評価アンケートにおいて、「将来の自分の進路について考えることができた」と回答した生徒が90%以上。 ○講演会等を経て、気持ちの変化を把握する。	◎体験的な学びや教科横断的な授業を通じて、将来の目標設定の助けを行う。 ○さまざまな講演会を通じて、自分の進路において考える機会をもつ。	○体験的な学びや教科横断的な授業を通じて、将来の目標設定の助けを行う。 ○さまざまな講演会を通じて、自分の進路において考える機会をもつ。	A	○12月に実施した学校評価アンケートの結果、「将来の自分の進路について考えることができた」と肯定的に回答した生徒は、93.8%と目標の数値を上回ることができた。 ○今年度も全校生徒に向けて2回のキャリア教育講演会、2・3年生に向けてはそれぞれ1回の進学講演会を、外部から講師を招き実施することができた。講師の言葉から、進路について考えるきっかけとなったようである。	A	○授業や体験的活動を通して、生徒が将来について考える機会が十分に確保されている。自己理解を深め、主体的な進路選択につながる取り組みとなっている。 ○講演会や外部との交流を積極的にを行い、生徒自身が進路について考える豊富な選択肢を提供する機会を設けてもらうのは有難い。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●学校評価アンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と回答した生徒が95%以上。	○「食育だより」を精査し、生徒の食に対する意識が高まるように、個々の実態に合った内容にする。 ○各授業や生徒委員会活動、また講演会等を通して、食事を基本とする健康的な生活の大切さを伝える。	A	○「食育だより」を昨年度より頻度を高め、2ヶ月に1回発行することができた。 ○生徒保健委員会において、前期に引き続き食に関する放送をクイズ形式で実施するなど、生徒の食への意識を高めることができた。 ○学校評価アンケートにおいて、「健康に食事は大切である」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒は合わせて99%を超えた。	A	○食育だよりや生徒主体の取組を通して、食に対する意識の向上が図られている。アンケート結果も99%を超えており、健康的な生活習慣の定着につながっている。	保健相談
	○安全に関する資質・能力の育成	○学校評価アンケートにおいて、「講演会や防災に関する行事や授業などを通して防災意識が高まった」と回答した生徒が90%以上。	○防災避難訓練や、身の回りに起こりうる災害についての授業を通して、防災意識を高める。 ○PTAと連携をとり、生徒・教職員分の備蓄食糧の整備をする。 ○学校周辺の危険箇所を把握し、情報を共有する。 ○毎月安全点検を行う。	A	○防災避難訓練では、生徒や教員が実際に活動に参加し、意識を高めることができた。 ○学校評価アンケートにおいて、「講演会や防災に関する行事や授業などを通して防災意識が高まった」と回答した生徒は97%であった。 ○PTAと連携をとり、生徒・教職員分の備蓄食糧の整備をした。 ○安全点検の実施方法を見直し、毎月確実に実施することができた。事務室の迅速な対応もあり、安全な学校生活環境を整えることができた。	A	○防災訓練や安全点検が計画的に実施され、防災意識の向上がアンケート結果にも表れている。実践的な活動を通して、安全に行動する力の育成が進んでいる。 ○学校としても生徒連帯防災意識が高いと判断できるが、安全に関する事項や行事は全て生徒主導で計画立案・実行・評価でいいと思う。	保健相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日	○持続可能な学校運営の改善を更に進める。 ○時間割上の配慮や年休取得推進日を設け、年休を取得しやすい環境をつくり行う。 ○業務を「抱え込まない」ために、職員相互で声掛けを行うことで、心理的安全性が保てる環境づくりを行う。	B	○勤務管理システムや完全定時退勤日の導入により、年度当初は時間外在校等時間が昨年を大幅に上回っていたが、秋以降昨年を下回る月も出てきた。 ○業務の効率化の意識づけにより、昨年と比較して1人当たりの年休取得日数が1日増加し、かつ、すべての職員が少なくとも5日以上の年休を取得した。 ○定期的な声掛けや衛生委員会で職員の心身の健康状態を確認している。学校評価アンケートにおいて94%の職員が本校に勤務してよかったと回答している。	B	○業務効率化に向けた取組が進められ、改善の兆しが見られる。今後も教職員が心身の余裕を持って教育活動に専念できる環境づくりを期待する。 ○定時退勤や年休取得など積極的に勤務時間を短縮しようとする取り組みは評価できる。	教頭
	○保護者・地域との連携強化	○学校評価アンケートにおいて、「学校は、メールや学校ホームページ等で、地域や保護者に情報発信を行っている」と回答した保護者が85%以上。	○学校ホームページを更新し、本校の教育活動とその成果を発信する。 ○Classi(アプリ配信)を利活用し、学校からの連絡や欠席連絡を確実に確認する等、行き違いがないようにする。	○学校ホームページを更新し、本校の教育活動とその成果を発信する。 ○Classi(アプリ配信)を利活用し、学校からの連絡や欠席連絡を確実に確認する等、行き違いがないようにする。	A	○学校ホームページで、日々の学校生活の様子を定期的に発信している。1つのトピックにつき1か月で5,000を超える閲覧があり、学校評価アンケートでも生徒、保護者、職員ともに95%程度が、学校は積極的に情報発信をしていると回答している。 ○Classiで学校からの連絡を随時保護者に送信し、アンケートもClassiでの回答としている。また、保護者からの欠席等の連絡もほぼ全てClassiで行われており、職員の業務改善に大きく役立っている。	A	○学校ホームページ等を活用した情報発信が継続的に行われ、学校の取り組みが分かりやすく伝えられている。保護者・地域との信頼関係構築に寄与している。 ○学校に対し、前向きで関心の高い保護者が多いと思われるので、アンケートにおける保護者の評価が高いことは素晴らしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の理解の促進と専門性の向上	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答する職員が80%以上。	○生徒指導協議会を開き、職員間の共有を図る。 ○職員研修を行い、特別支援に関する専門性を高める。	B	○細やかな連絡を実施できたことで、情報共有に役立った。専門機関とも連携し、生徒個々に、適切な対応ができた。 ○特別支援に関する研修内容を職員間で共有することができた。	B	○校内での情報共有や研修を通して、支援体制の充実が図られている。今後は専門性をさらに生かした支援の深化を期待する。	保健相談
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価				
				達成度 (評価)	実施結果	評価		学校関係者評価 意見や提言
○生徒が行きたいと思う学校づくり	○魅力ある学校行事等の企画・実践 ○自己有用感の育成	○学校評価アンケートにおいて、「本校に来て良かった」と回答した生徒が90%以上。 ○学校評価アンケートにおいて、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と回答した生徒が90%以上。	○日々の学習活動や学校行事を通し、生徒主体の活動を重視し、適切に評価をする。 ○生徒の主体的な活動について、職員間の情報共有、共通理解を確実にする。 ○教育相談等を活用すると同時に、生徒の変化を敏感にキャッチし、その支援を適切に行えるよう、日々生徒を観察する。	A	○学校評価アンケートにおいて、「本校に来てよかった」と回答している生徒が87.9%、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」と回答した生徒が96.5%となり、成果目標は達成できた。継続して生徒主体の活動の重視や適切な評価、学習活動の充実に取り組まなければならない。 ○生徒の活動について、学年での情報共有や、細やかな対応がされている。 ○教育相談や学校生活アンケートで生徒の困り感を把握し、適切な対応ができた。SCと連携を図り、生徒情報の共有を行い、指導を工夫した。	A	○生徒主体の活動や教員による適切な評価が、生徒の自己肯定感の向上につながっている。アンケート結果からも教職員の関わり方の質が高いことが伺え、今後も生徒の声を活かした取り組みの継続を期待する。 ○アンケートの評価からは概ね評価できていると思われる。学習指導やいじめにおいて評価できないと伝えた生徒に寄り添う対応を期待する。	教務

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の向上については、ICTの活用により分かりやすい授業を実践し、授業が「分かりやすい」と感じている生徒が多い。家庭学習の充実により確かな学力を定着させ、主体的な学習に取り組む生徒を育てたい。 ○心の教育については、道徳や学校行事等で相手思いやりの豊かな心の醸成、学校生活アンケートなどによる安心して学校生活に取り組める環境づくり、自分の将来設計について真剣に考える土壌づくりを行うことができた。 ○業務改善・教職員の働き方改革の推進については、年休取得日数が昨年よりも増加するなど、着実に進んでいる。前例踏襲ではなく、教職員の働き方に対する意識改革と業務改善をさらに進めていく必要がある。
----------------	--